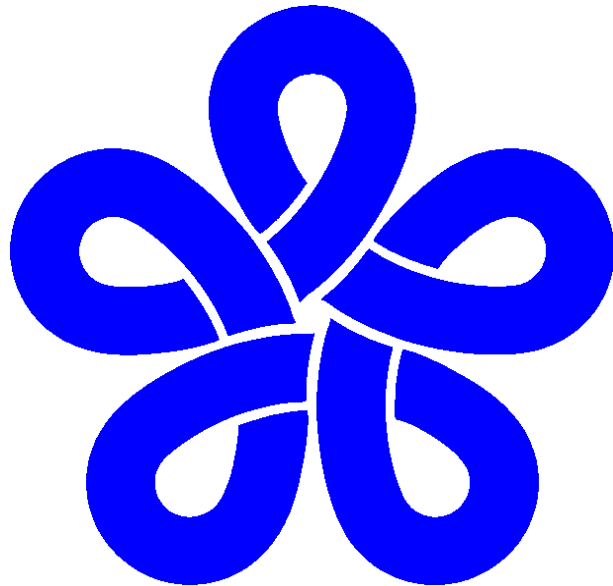


令和7年5月
世界卓球選手権大会誘致カタール訪問団
報告書



令和7年5月24日～29日

福岡県議会

世界卓球選手権大会誘致カタール訪問団

(報告書)

第1 出張の概要

1 目的

- ・ 2028 年世界卓球選手権団体戦を福岡県に誘致するため、2025 年世界卓球選手権個人戦及び国際卓球連盟年次総会が開催されるカタール・ドーハに出張した。
- ・ この誘致には、日本のほか中国、イラク、イタリアも立候補していたが、日本卓球協会と連携し、かつ、本県の意気込みを伝えるために本議会と知事部局が協力して、アジア圏・ヨーロッパ圏以外のアフリカ・オセアニア・南米の各国に重点的にロビー活動を展開し、票の獲得につなげることが目的であった。

2 日程：2025 年 5 月 24 日（土）～5 月 29 日（木）

3 行程

日 時		内 容
5/24 (土)	19:10 22:50	福岡空港発 羽田空港発
5/25 (日)	4:55 12:00～17:00 19:00～20:30 21:00～22:00	カタール ドーハ・ハマド空港着 1 世界卓球会場現地調査【ルサイルスポートアリーナ】 2 主催者レセプション【シエラトン】 3 プレゼンテーションリハーサル【シエラトン】
5/26 (月)	11:00～13:00 16:00～17:00 17:30～20:00	4 スポーツ施設現地調査【オリンピックミュージアム】 5 プレゼンテーション準備【シエラトン】 6 大会誘致 最終プレゼンテーション【シエラトン】
5/27 (火)	11:00～14:00 17:00～18:30	7 スポーツ施設現地調査【アスパイアアカデミー】 8 国際卓球連盟年次総会【シエラトン】
5/28 (水)	7:15 23:55	カタール ドーハ・ハマド空港発 羽田空港着
5/29 (木)	10:00 11:55	羽田空港発 福岡空港着

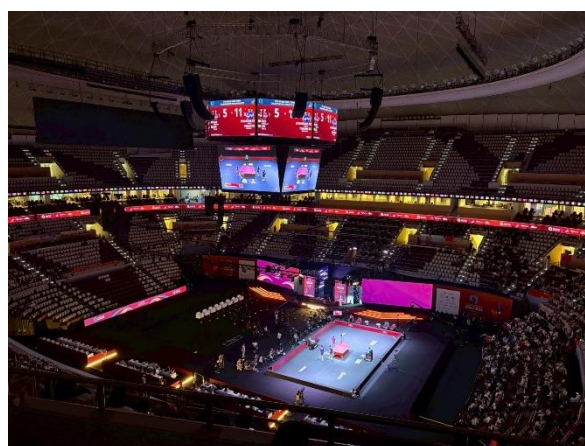
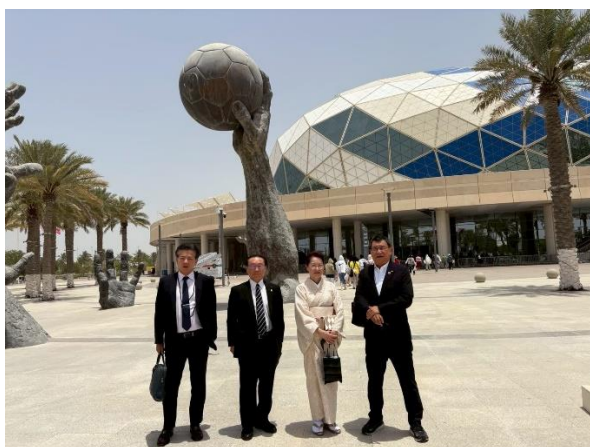
- 4 出張者：大曲 昭恵 福岡県副知事
 中尾 正幸 福岡県議会副議長
 松尾 統章 福岡県議会 自民党県議団会長
 井上 順吾 福岡県スポーツ議員連盟会長

随 行：人づくり・県民生活部スポーツ局スポーツ企画課長 ほか2名
 福岡県議会事務局総務課副課長 ほか1名

第2 現地での主な活動内容

1 世界卓球会場現地調査

- ・レセプション開始までの時間を利用して、実際に世界大会が開催されている会場現地を訪れ、大会運営やメインアリーナの様子などを視察した。
- ・前日は女子シングルの伊藤、女子ダブルスの張本／木原ペアが銅メダル、混合ダブルスの吉村／大藤ペアが銀メダルの快挙を達成し、大きな盛り上がりを見せていた。
- ・会場視察時は、戸上／篠塚ペアが挑む男子ダブルスの決勝が行われており、訪問団も日本からの応援団とともに声援を送った結果、男子ダブルスで64年ぶりとなる金メダルを獲得。日本への大会誘致に向けて大きな後押しとなる快挙を成し遂げた。

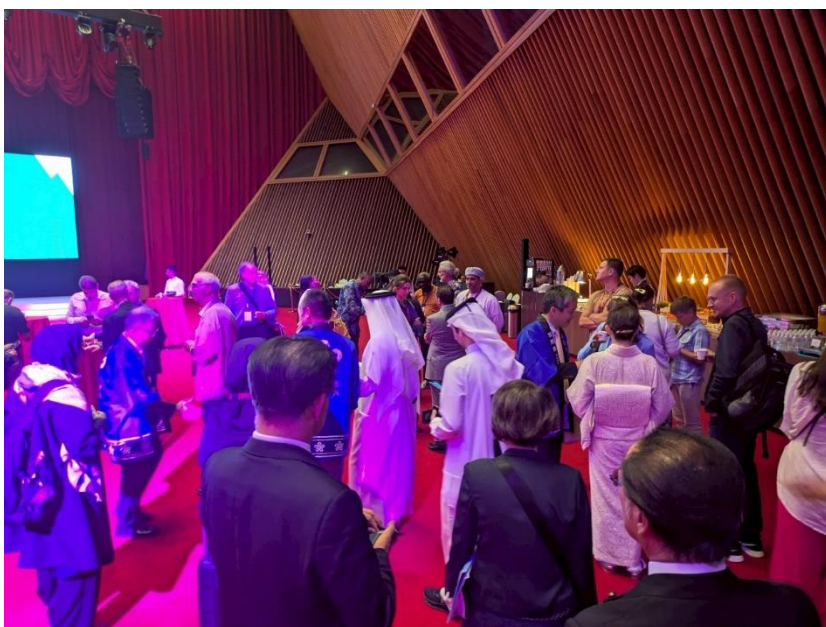




2 主催者レセプション

- ・2019年に誘致活動で中国に敗北した反省を踏まえ、AGM各国代表や関係者を招いたレセプションを、日本卓球協会と本県で開催した。
- ・大曲副知事は着物で、中尾副議長は福岡県の青法被を着て、翌日のAGMで各国のキーパーソンとなる方へのロビー活動を行うとともに、日本卓球協会の河田会長、大曲副知事からの挨拶に続いて、本県議会からは中尾副議長、井上スポーツ議連会長から挨拶を行い、2028年団体戦の本県開催に向けた熱意を伝えた。
- ・会場では、翌日のプレゼンでも使用する誘致のために作成した動画をループ再生し、軽食やソフトドリンクを楽しんでもらいながら、視覚的にも福岡の魅力のPRを行った。
- ・また、水出し八女茶や福岡のお菓子を振舞うとともに、来場いただいたノベルティとして小倉織のバッグをプレゼントした。これも2019年に中国・アメリカが合同開催のレセプションで使った手法で、前回の敗北から学んだPRツールの1つであり、参加者からは大変好評だった。

※AGM：総会年次



レセプション会場でのロビー活動等の様子



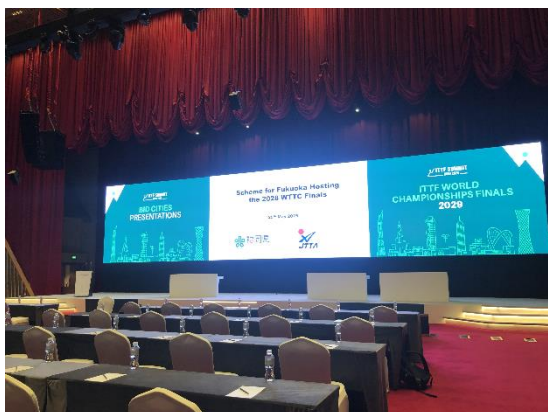
金メダルの戸上／篠塚ペア



開催国カタール卓球協会関係者

3 プレゼンテーションリハーサル

- ・レセプション後、翌日のプレゼンテーションに向けたリハーサルを 22 時まで実施した。



4 スポーツ施設現地調査

※総会会場でロビー活動を行う予定であったが、想定していた各国関係者が集まる場がなくなったため、急遽オリンピックミュージアム視察を追加。

【視察内容】

- ・スポーツの歴史やカタールにおけるスポーツ振興の取組について説明を受けるとともに、過去のオリンピックで活躍した選手の紹介展示や体験ゾーンを視察した。



5 プレゼンテーション準備

- ・日本卓球協会と昨日のリハーサルを踏まえてプレゼンに向けた打合せを行い、誘致実現に向けた万全の体制を整えた。
- ・ITTF (※) からの情報では、2028年大会団体戦には、日本、中国、イラク、イタリアの4カ国が立候補を表明していたが、中国とイラクが辞退したため、イタリアとの一騎打ちになるとのことであった。
- ・2027年の個人戦立候補地によるプレゼンの後、イタリア・ミラノー日本・福岡の順でのプレゼンとなった。

6 大会誘致 最終プレゼンテーション

- ・プレゼンテーションの直前、AGMのフロアに入場した際、イタリア・ミラノが立候補を辞退し、プレゼンテーションの時間を利用して日本・福岡開催への激励メッセージを行うとの情報が飛び込んだ。
- ・実際にイタリア・ミラノは立候補を辞退し、日本・福岡開催を応援する旨をスピーチしたため、事実上はここで日本・福岡開催が内定することとなった。(イタリアの辞退は会場での日本の活動状況を踏まえたものと推測される。)
- ・プレゼンでは、中尾正幸副議長、大曲昭恵副知事、松尾統章議員、井上順吾議員と河田正也 日本卓球協会会長が壇上に上がり、福岡開催のPR動画の披露に続き、副議長、副知事は英語のスピーチで福岡への大会誘致をアピールした。
- ・当日は開催地の決定はなされず、翌日のAGM総会において正式に決定されることとなった。



AGM総会の様子



スピーチする中尾副議長、大曲副知事

服部知事からのメッセージ動画

7 スポーツ施設現地調査

アスパイアスアカデミー概要

カタールが 2004 年に国家プロジェクトとして設立した、世界最大級の総合スポーツ育成・教育機関。将来のオリンピック選手やワールドカップで活躍する若手アスリートのスカウトから育成、教育までを一貫して行う施設。欧州クラブと提携した世界基準の環境を提供している。

カリキュラム：スポーツ技術指導に加え、高校教育を提供。将来的な海外挑戦を見据えた言語（スペイン語・英語）教育も義務づけられている。

欧州との連携：ベルギーやスペインのクラブを所有・提携しており、有望選手を欧州へステップアップさせるルートを持っている。

スペイン人指導者：元バルセロナのコーチらを中心に、最先端のスペイン式メソッドを採用している。

世界最高峰の設備：ドーハにある広大な敷地に、スタジアム、サッカーコート、プール、教育施設、最新の科学的サポートが可能な施設を完備している

（アスパイア・アカデミーHP 参照）

オリンピックアカデミー概要

概要：2006 年に設立されたドーハにある国際オリンピックアカデミーの加盟校。世界最先端のスポーツアカデミー。

カタールオリンピック委員会（QOC）の強化拠点という側面も持ち、国の英知を結集して世界レベルのアスリートを育成する機関

地域、国内、国際的にスポーツとオリンピック教育におけるリーディングアカデミーとなることを目標としている。

育成方針：サッカーをはじめとする複数のスポーツで、若手選手を英才教育し、黄金世代を磨き上げるプロジェクトの中核。

施設：ドーハ郊外の「アスパイア・ゾーン」に位置し、屋内競技場、ピッチ、スポーツ医科学センターなどを備える。

成果：サッカーの U-19 アジア王座獲得（2014 年）や、陸上走高跳のバーシム選手など、世界的な選手を輩出。

（カタールオリンピックアカデミーHP より引用）

【視察内容】

- ・ 本県がタレント発掘事業を開始したのと同時期である 2004 年に設立された国立スポーツアカデミー。カタル国内外の若いアスリートの発掘と育成を目的としており、スポーツのトレーニングだけでなく、学術教育も提供している。
- ・ 対象は主に 12 歳から 18 歳の男子生徒。サッカー、陸上競技、フェンシング、卓球など多岐にわたるスポーツプログラムが準備されており、スポーツ科学や語学教育にも力を入れている。
- ・ 産油国の国立機関であるため、他国から家族ごと移住してもらい、その経費も国の助成があるなど、とても手厚い体制が組まれているとのことであった。
- ・ 施設規模等とても参考にできない部分はあるが、スポーツ面だけではなく、学習面も含めたサポート体制を組んでいることは、本県のアスリート育成にあたって参考になるため、予定時間を大幅に超える視察調査となった。





アスパイアアカデミー 視察調査の様子

8 国際卓球連盟年次総会AGM

- ・総会が始まり、結果を待つまでの間、レセプションに参加された方々からは、激励の言葉を多くいただいた。
- ・前日のプレゼンテーションの結果を受け、2027年～2029年までの大会開催地がAGM年次総会において決定された。
- ・2028年の世界卓球選手権ファイナルズ（団体戦）については、福岡での開催が正式に決定された。日本での開催は、2014年の東京大会以来14年ぶりとなり、九州では初の開催となる。



正式決定後の様子

- ・今回の誘致活動は、2019年度のハンガリー大会での誘致失敗に端を発し、以降、日本卓球協会及び執行部のスポーツ担当セクションとしっかりと連携を組み、情報収集を行った結果、7年越しに悲願を達成したケースとして今後の本県の国際大会誘致活動のモデルケースと評価できる。
- ・7年前に種を蒔き、東京オリンピックや昨年度の韓国大田大会等、コロナ禍で中断せざるを得ない時期もあったが、関係各所へのロビー活動を入念に継続してきた成果が今回の開催地決定である。
- ・2028年世界卓球選手権（団体戦）誘致が日本・福岡に決まり、2026年イギリス・ロンドン大会から男女64か国1200人が参加する。期間もこれまで11日間だったものが13日間の開催となる。このことは九州はもとより韓国、中国など卓球が盛んなアジア圏、ヨーロッパ圏からの観光客が見込めるなど、経済効果に期待が持てるところである。

【訪問を終えて】

本出張の最大の目的であった「2028年 世界卓球選手権団体戦」の福岡開催について、このたび無事に招致を勝ち取ることができ、大きな安堵と達成感を感じております。

誘致活動にあたっては、最終プレゼンテーションにおいて、団長として、また福岡県民を代表して一生懸命、英語でスピーチを行いました。私の熱意が伝わったのか、必死さが伝わったのかわかりませんが英語でのスピーチ後、審査員をはじめ聴衆の皆様から大変大きな拍手をいただき大役を果たせたことにほっとしました。

この結果は、本県が世界から開催地として認められた証であり、同行したメンバーの献身的なサポートと、日本卓球協会をはじめ、これまで準備に尽力してくださった全ての関係者の皆様のおかげです。

今後は、開催決定を最大限に活かし、万全の体制を整えるとともに、世界中の選手やファンを温かく迎え入れ、大会を成功させるために県を挙げて準備を加速させてまいります。

団長 所見

私は、中尾 正幸副議長を団長として実施した 2028 年世界卓球選手権団体戦の誘致活動に、スポーツ議員連盟会長と福岡県卓球協会会長の 2 つの立場で臨んだ井上順吾です。この度の誘致活動の感想として、先ず、お話ししたいことは、海外の方々に理解をいただき、目標を達成することは、本当に難しいということです。

私は、7 年前の 2019 年にハンガリー・ブタペストで開催された国際卓球連盟の総会において、2022 年の世界選手権大会の誘致に臨みましたが敗れ、今回は 2 回目の挑戦でした。福岡県卓球協会の会長に就任して一番に思ったことは、これまで卓球の世界大会は東京や大阪、名古屋などで開催されており、なぜ福岡で開催されないのか、福岡には魅力がないのかと感ずるほどでした。

「世界のオギムラ」と言われていた荻村伊智朗氏を讃える「L I O N卓球ジャパンオープン荻村杯北九州大会」が 2018 年に北九州市総合体育館で行われた時、日本卓球協会、世界卓球連盟の役員の方々から、福岡の人たちは大会での応援マナーが素晴らしい、とても選手に温かいと言われたことが、福岡へ世界選手権大会を誘致したいという私の決心に繋がりました。また、福岡県議会で立ち上げた「九州の自立を考える会」が目指す、九州の成長戦略が掲げる五つの柱にスポーツの振興と観光があり、大会の誘致が実現すれば九州の発展にもつながると思いました。

2016 年ブラジルのリオで行なわれたオリンピックが終わり、元 NHK スポーツアナウンサーの山本浩さんが、九州の自立を考える会が主催する基調講演で卓球の醍醐味を話されたことも、私の心を強く後押ししました。「よし、世界選手権を福岡に。」、そして九州で応援できる体制をつくることを目標にして、議会で、卓球界でその価値を唱えてきました。

先程もお話ししましたとおり、2019 年の国際卓球連盟総会において、2022 年開催の世界卓球団体戦を日本・福岡県北九州市に誘致しようと、日本卓球協会、福岡県、北九州市の三者で挑戦しましたが、中国・成都に投票で敗れました。海外の方々に、思いを伝え信頼を勝ち取ることの難しさと、ロビー活動の大切さを学んだのがこの時です。

日本で行なわれる全日本選手権大会や WTT ファイナルなど世界から訪れる大会には必ず行き、日本卓球協会の役員の方々と共に誘致活動に取り組んできたところです。今回のカタールでの総会により 14 年ぶりの日本開催、九州初めての福岡大会が決まったことは本当に感無量です。世界卓球連盟加入の 227 カ国・地域の人たちが九州・福岡へ行ってみたいと思えるロビー活動、プレゼンテーションができて、会場の皆さんの心にとどいたものと考えています。

私たちが持ち込んだ博多織扇子、小倉織のバック、メッセージコースター、JTTA(※)のピンバッジが喜ばれ、カタールはイスラム教の世界ですからアルコールはありませんが、福岡県特産の八女茶の水出しは特に喜ばれ好評でした。

なお、次回開催されるロンドン大会では、参加国数が男女各 64 か国に拡大する初めての大会であり、福岡大会も同様の参加国数で開催します。多くの国と地域から、沢山の方々が来県するこの大会の成功に全力で取り組んで参ります。

※JTTA：日本卓球協会

参加者 所見